Staff Blog

園 長 室 ブ ロ グ

生物多様性交流フェアで

このコラムでも何回か紹介してきた生物多様性条約締約国会議(COP10)が名古屋で始まりました。この会議に合わせ生物多様性交流フェアが開催されており、休みを利用して（平成22年10月15日）私も覗いてきました。会場はCOP10が行われる名古屋国際会議場に隣接する白鳥公園と熱田神宮公園に設けられたゾーンで、ここに200をこえるブースに展示テントがひしめき、政府や自治体、企業、NPOなどによる生物多様性への取り組みなどが紹介されていました。

名古屋国際会議場遠景

テントでのブース展示

本格的な会議開催(18日から)にあわせまだ半分程度のブース展示だったことと、訪ねたのが金曜日のため比較的空いていましたが、理由はそれだけではなくこうした問題に対する関心の低さがあるような気がしました。また、どうしても商業ベースにのりにくいテーマであることと観念的なテーマなのか展示も地味にならざるを得ないのかもしれません。それでも、名古屋における生物種の減少や企業の開発による森林や里山の減少、外来種の増加など、特に地元の自治体・名古屋市やNPOなどの展示が充実していたように感じました。

最近ニュースでは、クマによる被害が相次いで報道されています。前にも書きましたが日立でもクマではなくイノシシの出没が多くなり特に山に食料が少なくなる冬にかけては目撃例が報告されます。でも彼らに罪はありません。特に繁殖して子供たちを抱えていればなおさらです。またついこの間は、外来生物に指定されているカミツキガメが警察を通して動物園へ持ち込まれました。あいにく飼えるスペースがないので動物指導センターを紹介しましたが、これだって生きている彼らに罪はないのです。

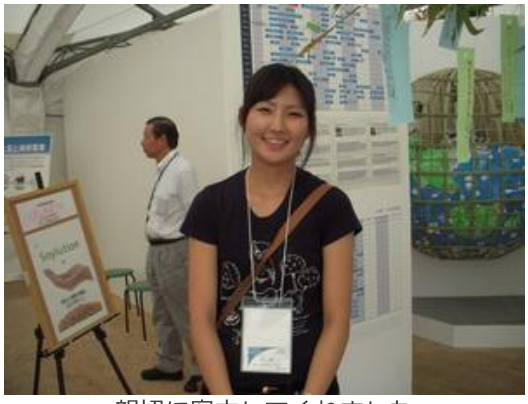
カミツキガメ

ミシシッピアカミミガメ

クマやイノシシの出没は、森や里山の減少により動物たちの生息している場所と人間の生活する場所が重なり合ってきたことなどが主な要因です。また、カミツキガメやよく動物園に持ち込まれるアカミミガメ(決して預かりません)などの外来種の増加は、ペットとして飼っていたものが大型化や狂暴化などで(時には長命化）飼えなくなり沼や川に放たれたものです。いずれにしてもこうした現象は、人間の活動により動物たちが本来棲むべき場所を奪われたことによるものです。むしろ里におりてこざるを得なくなったクマ、イノシシや外来種などと有り難くないレッテルを貼られたカメたちこそ被害者なのです。

生物多様性を考えるとき、ただ多くの生物種がいたずらに存在すればいいというのではなく、それぞれの生息環境にあわせたバランスのとれた自然な生態系を維持していかなくてはならず、これと人間の社会経済活動をどう折り合いをつけていくのか、そうした問題にいま多くの英知が集まり、名古屋でその方向性を見出そうとしています。

市民ネットワークの展示


親切に案内してくれました

（平成22年10月19日）

2010年10月19日

過去の一覧

令和6年